

令和8年度 学校経営計画書

学 校 名	倉敷市立葦高小学校
校長氏名	鮫 島 正

○ 本校のミッション（使命、存在意義）

予測困難な社会の変化に対しても、主体的に考え判断し、対話を重ねて粘り強く協働することで、よりよい社会と幸福な人生の作り手となることができるように「生きる力」をつける。

学校教育目標を「愛と信頼による共感的理解を基盤として、心豊かで心身ともにたくましい児童の育成を目指す」とし、学校が、保護者・地域と一体となって教育活動を推進する。

○ ミッションの追求を通じて実現しようとする本校の学校経営ビジョン（将来像、目指す姿）

<目指す子ども像>

- ・あせを流して働く子 (児 童) 「葦高っ子でよかった。」と思える学校
- ・しんせつで優しい子 (保護者) 「葦高小学校に通わせてよかった。」と思われる学校
- ・たくましく強い子 (教職員) 「葦高小学校の職員でよかった。」と思える学校
- ・かんがえて工夫する子

○ 当該年度の具体的な学校経営目標・計画

目標を共有する教職員集団による協働、保護者・地域との協働により、次の4つが揃う学校を目指す。

1 子どもの笑顔があふれる学校

<人と自分を大切に作る集団づくり>

- ・子どもと子ども、子どもと教師が心つながる学級集団づくり、保護者との深い連携
- ・人権感覚を磨き、児童の主体的・意欲的な課題解決能力の育成を目指す教職員集団
- ・縦割り班活動の充実 ・年3回のなかよし（人権）週間と全校活動の取組
- ・朝のあいさつ運動と奉仕活動（自主的行動意欲の涵養）

<ポジティブな行動支援を原則とした生徒指導>

- ・「よい行動に注目する児童支援」の推進（グッドカード、行動チャート等の活用）
- ・ルールとマナーの徹底と習慣化（挨拶、返事、持ち物、遊び方）
- ・自己指導能力の育成（共感的人間関係、自己決定、自己肯定感、自己有用感）
- ・学年団力を生かした学年団経営 ・職員終礼や職員会議等での定期的な情報交換の充実
- ・確実ないじめの早期発見と早期対応 ・年2回の教育相談週間の実施

<特別支援教育>

- ・一人ひとりの深い児童理解に基づいた支援体制
- ・UDの視点を生かした授業の継続 ・授業中の個別支援の工夫 ・保護者との連携強化
- ・児童の実態把握と指導方針の共有化 ・個別の指導計画や教育支援計画の作成

<不登校対策>

- ・別室支援（不登校支援員、別室支援員との協働）を核とした家庭支援と子どもの居場所づくり
- ・SC、SSW等専門家との連携による校内支援体制の構築
- ・早期対応（担任による欠席3日までの対応とそれ以降の組織的対応）による未然防止の取組

2 分かる授業・楽しい授業・できる授業が繰り返される学校

- ・「学習規律、集団規律」の確立、「聞く力」の醸成、表現力、話型やノート指導等の充実
- ・タブレット等のICT機器の適切な活用による、主体的・対話的で深い学びが実感できる授業づくりの工夫と、個別最適化された効果的な学びの取組や学習支援（校内研究での推進）
- ・学習習慣の改善と家庭学習の支援（タブレットの活用） ・健全なネットリテラシー習得の取組
- ・読書習慣の広がりや深まり ・コロナ禍で低下した「体力・運動能力」の向上
- ・専門性を生かした教科指導（教科担任制）の推進

3 安全で よく整美された環境の学校

- ・定期的な安全点検の確実な実施と早期対応
- ・ルールとマナーの徹底と習慣化（凡事徹底、履き物・雑巾・机椅子の整頓、掃除）
- ・教師と児童が共に創る、心と耳に優しい言語環境
- ・心を豊かにする環境整備（季節感のある掲示物、季節の花、おもてなしの対応）
- ・役割、分担、手順を明確にし、協力し合って最後までやりきる「汗を流して働く」教職員集団。（掃除、委員会活動、係活動、当番活動）

4 学校を支える応援団がいる学校

- ・保護者や地域の方の学校支援ボランティア活動（見守り活動、読み聞かせ、学習支援等）の拡充
- ・学校だよりやホームページを活用し、地域に大切にされる開かれた学校を目指す。